都留の野ぼとけ（十）

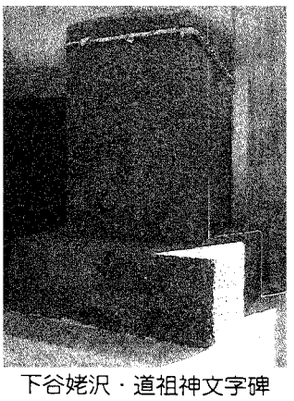
# 道祖神

鈴木茂治

小正月（一月十五日）の子どもたちの楽しみは、村の道祖神の前でドンド焼きをして、ダンゴを焼いて食べることでした。

昔から道祖神は、村境や峠みちなどに立っていて、村に悪魔や病気がはいってくるのを防いでくれていたのです。また、道の神・旅の神・縁結びの神・家内安全の神などとも信じられ、村びとや旅びとにとって、たいそうありがたい神様でした。小正月のドンド焼きは、今ふうに言えば「交通安全・健康・平和フェスティバル」のようなものですね。

だから、ほかの野ぼとけと違って、道祖神には「どうろくじん・さえのかみ・さいのかみ・たむけのかみ」などと、いろいろな呼び名がついているのです。



下谷姥沢・道祖神文字碑

## 文字道祖神

道祖神は、その石の形からだいたい「文字碑」と「双体像」の二種類に分けられます。市内には現在五十五基の道祖神が残っていますが、そのうち文字碑は三十七基もあります。

ふつう文字碑は「道祖神」とずばり筆字が彫ってありますが、よく見ると違う字が書いてあるのもあります。なかでも県下にも珍しいと言われているのが、羽根子入口の「出雲路幸神」です。なぜ出雲と名がついているのかわかりませんが、幸の神（道祖神）は縁結びの神様なので、きっと、二人の願いを出雲の神様に届けますよ、という意味かもしれませんね。

写真の姥沢の国道脇にある文字碑は「衢祖神」とあり、これも珍しいものです。「衢」は「道」の異体字ですから、これも「どうそじん」と読んでいいでしょう。たぶんそこは、四方八方へ道が分かれていた「やちまた」の地点だったのでしょう。

上夏狩下宿・双体道祖神

## 双体道祖神

もう一種の道祖神は、今までに何度か紹介した浮彫立像碑です。この道祖神像は仏像でも明王像でもなく、人間の男女二人が仲良く並んでいる微笑ましい「双体道祖神」です。これもまた、よく見るとみんな違ったポーズをしています。手をつないでいるもの、抱き合っているもの、向い合っているものなどさまざまです。

なかでも有名なのは上夏狩の双体像で、マンガのチンコロ姐さんみたいに堂々と「チュー」をしているのが何ともユーモラスです。夏狩にはこのほかに双体像が二体あり、写真の上夏狩下宿のものは身長四十一センチと市内では最も大きく、彫りも姿も立派です。

小正月には道祖神めぐりをして、幸せを授かりましょう。

## 境の太宰府天神社社殿が第五九号都留市有形文化財に新しく指定されました

今回指定されたのは、明治元年六月二十五日に建立された、間口二間・奥行二間の権現作りの社殿です。

建物全体にわたって、伊豆国江奈村の小沢流の名工・小沢半兵衛邦秀、俊秀親子の手による各種各様の彫刻が施され、市内でも他に例を見ません。

また、この社殿の中には明治元年に描かれた社殿造営設計図が保存されており、これも社殿の付属として一緒に指定されました。

社会教育課文化振興係

## 寄付（敬称略）

社会福祉のために

小林　強

金一〇〇、〇〇〇円

図書

小俣　治三郎

三〇冊

## 都留文科大学比較文化学科講演会

日時　1月24日

午後1時30分

場所　都留文科大学

講師　作家　日野啓三さん

一九七四年　芥川賞受賞

現在、同賞選考委員

『あの夕陽』で芥川賞受賞

泉鏡花賞、谷崎潤一郎賞

野間文芸賞、85年『夢の島』で芸術選賞

最近の著作

長編小説『光』文芸春秋社

短編集　『聖岩』中央公論社

エッセイ集『流砂の声』

読売新聞社

## 講演会と青少年問題研究大会

日時　2月1日

午後1時30分

会場　文化会館　大ホール

講演　「はばたけ！青少年」

講師　フリージャーナリスト

（元NHKアナウンサー）

末　利光　氏

主催　都留市青少年

総合対策本部

都留市教育委員会

青少年育成都留市民会議

都留市育成会連合会